

Ⅲ 「郷土と日本、そして世界を知る力」を育成する

1 郷土の魅力を学び、世界の多様性を理解

(1) 国際的視野を持つ人材の育成 <<施策22>> 高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

令和3年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 英語教員の英語力向上を図るとともに、「聞く・読む・話す・書く」の4つの技能を総合的に育成する授業改善を進め、グローバル化に対応した英語教育の充実を図ります。
- ◇ 児童生徒の英語コミュニケーションへの意欲や英語力を高める取組を推進します。
- ◇ 英語教育における市町村の体制整備への支援を行います。

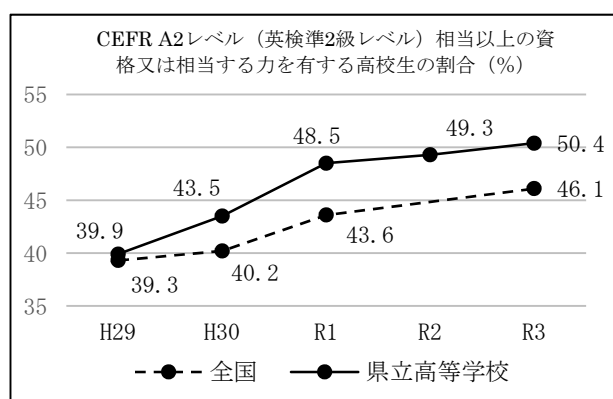
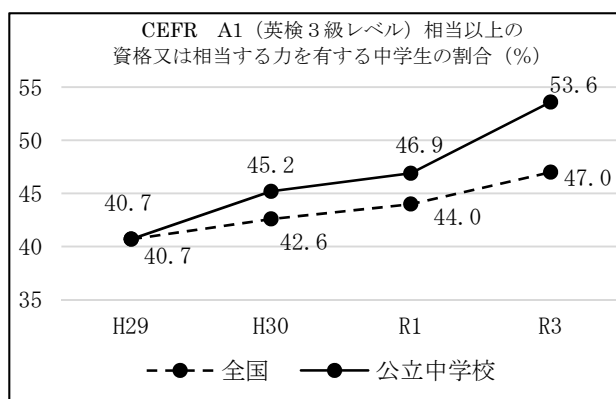
令和3年度 主な取組・事業

取組・事業名	実績
世界に挑む 人材育成事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校生海外留学説明会 中止                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 留学支援団体と連携した個別相談</li> </ul> </li> <li>○ 留学助成金                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10日間から1か月間の短期留学プログラム(学校が申請し文部科学省から採択されたもの)に対し、一人当たり6万円の助成金給付(高校生等奨学給付金受給者は5万円を上限として加算)</li> <li>※ 留学中止により給付対象者なし</li> </ul> </li> </ul>
グローバル化に対応した 英語教育の推進 <重点事業16>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国語指導助手(ALT)の配置(令和4年3月現在、政令市を除く。)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校対象 70人 (高校教育課1人、県立高等学校68人、県立中等教育学校1人)</li> <li>・ 小・中学校対象 224人 (教育事務所16人、義務教育課1人、市町村教育委員会207人)</li> </ul> </li> <li>○ 配置校以外へのALTの派遣                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援学校11回、高等学校144回、英語科夏季研修4人</li> </ul> </li> <li>○ ALT研修会 年6回 オンラインで実施</li> <li>○ ALT指導力等向上研修 年1回(1日間) オンラインで実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い2日間の予定を短縮</li> </ul> </li> <li>○ 英語活動指導員を高等学校に4人配置                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語以外の科目等を英語で教えるイマージョン教育を実施</li> <li>・ イマージョン教育公開授業 中止</li> </ul> </li> <li>○ ネイティブ英語教員を高等学校に3人配置                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の統合型の英語力(聞く、読む、話す、書く能力)を育成</li> <li>・ ネイティブ英語教員による英語教員指導力向上研修(実践発表等、オンライン形式)</li> </ul> </li> <li>○ 小学校教員のイングリッシュ・セミナー実施 3会場(福岡・北九州、北筑後・南筑後、筑豊・京築)で437人参加</li> <li>○ 県立高等学校の外部英語検定試験受験希望者のうち、高校生等奨学給付金受給者に対する受験料の補助</li> <li>○ 英語教育重点支援市町村の指定(21市町村24校)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育事務所等の指導主事の重点的な派遣</li> <li>・ 実践研究に要する経費に対する補助</li> </ul> </li> <li>○ 小学校5・6年生を対象とした小学生イングリッシュ・チャレンジの実施 3会場(福岡・北九州、北筑後・南筑後、筑豊・京築)で198人参加</li> <li>○ 中学校3年生(政令市、県立中学校、中等教育学校を除く。)を対象に英検IBAテストを実施(受験者20,558名)</li> <li>○ 中学生英語スピーチコンテストを実施(政令指定都市等を含む県内8地区の予選から47名が出場)</li> </ul>

※ 中止は新型コロナウイルス感染拡大防止によるもの

## 指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値	達 成 状 況
生徒の英語力の向上	CEFR <sup>注1)</sup> A1 レベル相当以上（英検3級程度以上）の資格又は相当する力を有する中学校生徒の割合	53.6% (R3年度)	50% (R3年度)	◎
	CEFR A2 レベル相当以上（英検準2級程度以上）の資格又は相当する力を有する県立高等学校生徒の割合	50.4% (R3年度)	50% (R3年度)	◎



※ 令和2年度の英語教育実施状況調査は新型コロナウイルス感染拡大に伴う中止により、全国値は不明。

## 成 果

「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能が高まり、実践的な英語力が向上しました。

- ・ 県立高等学校における CEFR A2 レベル相当以上（英検準2級程度以上）の生徒の割合が増加しました。
- ・ 英語活動指導員によるイメージ授業（英語以外の教科を英語で学ぶ授業）を8校で実施し、より実践的な英語力の向上や学習意欲の向上を図りました。
- ・ 「CAN-DO リスト」<sup>注2)</sup>形式の学習到達目標を設定している中学校及び学習目標の達成状況を把握している中学校の割合は100%（政令市を除く。）でした。

## 課 題

生徒の4つの技能を総合的に育成するため、英語教員の指導力と英語力をさらに高める必要があります。

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響により、留学者数が減少しています。
- ② 高校生の英語力は着実に向上していますが、目標を達成するためには、生徒の「聞く・読む・話す・書く」の4つの技能を総合的に育成する必要があります。また、英語教員の指導力をより一層向上させる必要があります。さらに、授業における、生徒及び英語教員の英語使用率を高める必要があります。
- ③ CEFR A1 レベル相当以上（英検3級程度以上）を取得する中学生の割合については53.6%で、目標値である50%に到達することができました。調査開始以来伸びを示していますが、さらなる向上を目指して、授業において4技能を統合した言語活動をさらに充実させる必要があります。

**対 応** 英語教員の指導力・英語力向上のための研修等を引き続き実施します。

- ① 留学説明会をオンラインで実施し、高校生の海外留学への興味・関心を高めるとともに、留学助成金について周知し、再び留学者数が増加するよう努めます。
- ② 生徒の統合型の英語力（聞く、読む、話す、書く能力）を育成するために、英語活動指導員やネイティブ英語教員を引き続き活用し、英語教員に対する研修として、配置校において公開授業を実施します。
- ③ 小学校教員対象のイングリッシュ・セミナーを実施して、小学校外国語科の目標及び指導と評価を一体化させた授業づくりの考え方を広めます。そして、小学校教員の英語力及び英語指導スキルの向上による外国語の授業改善を図ります。  
中学3年生を対象とした英検 I B Aテストの実施や中学生英語スピーチコンテストの開催を通して、英語力の高い生徒の育成に努めます。

#### 注釈

注1) CEFR：語学力を評価する国際的な基準。6つの外国語習得レベル（A1, A2, B1, B2, C1, C2）があり、英検3級程度はA1、英検準2級程度はA2とされている。

注2) CAN-DO リスト:4 技能（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」及び「書くこと」）別に設定した、学年、学期ごとの学習到達目標の一覧。